

〈看護学科〉

基礎看護学

教授：田中 幸子	基礎看護学
准教授：菊池麻由美	基礎看護学
講師：羽入千恵子	基礎看護学
講師：佐竹 澄子	基礎看護学
講師：青木 紀子	基礎看護学

教育・研究概要

基礎看護学領域では看護学科学生の定員増を見据えて、教育内容および方法の検討を行った。特に、看護の技術習得のための授業、演習、実習の方法を工夫し、少人数での学習を可能にするためのプログラム開発と実習病棟との交渉をはじめた。

また、フィジカルアセスメントについての教授方法の検討および看護援助、看護診断に関する研究を行った。これまでも基礎看護学領域で力を入れてきたフィジカルアセスメント教育についての研究では、看護学生の初期看護学実習におけるフィジカルアセスメント技術の習得状況を質的に明らかにし、実習および事前の講義や演習等の教授方法との関連を検討した。看護援助についての研究では、排泄および安楽、ポジショニングの技術に焦点を当てた準実験的デザインの研究を行っている。また、療養介護病棟でのフィールドワークに基づく運動機能障害患者への援助行為についての記述的研究および新たな看護診断ラベルの同定に向けた看護診断に関する研究にも続けて取り組んでいる。

〔点検・評価〕

看護実践能力の育成に向けて精力的に教育方法の検討を行った。特に、フィジカルアセスメント教育については研究結果からも一定程度の効果が確認できている。今後更に、日常生活の援助に関連した技術の習得にむけて、リアリティのある教授方法の工夫やeラーニングを用いた学習支援などを工夫していきたい。

研究活動については、領域構成員がそれぞれに研究テーマをもって継続して研究を行っている。これまでの研究成果は各学会で発表してきた。今後、これらを学術論文にまとめることが必要である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 馬場 薫 (関東学院大), 齋藤深雪 (山形大), 田中幸子, 丸山幸恵 (神奈川保健医療大). 病院に勤務する専門看護師の職場環境の実態と職務満足との関連. 日看研会誌 2013; 36(2): 95-104.
- 2) 青木紀子. 便器を挿入し上半身拳上角度を変化させたときの自覚的な腹圧のかけやすさと腹圧のかかり方. 日看技会誌 2014; 12(3): 50-7.

III. 学会発表

- 1) 菊池麻由美, 羽入千恵子, 佐竹澄子, 青木紀子. (示説: 学生の認識・学びV) 早期体験実習を行う看護学生の臨床のみえ方 早期体験実習とはいかなる経験なのか. 日本看護学教育学会第23回学術集会. 仙台, 8月. [日看教会誌 2013; 23(学術集会講演集): 249]
- 2) 田中幸子. 中高年看護職者のセカンドキャリア. 第4回看護経済・政策研究学会学術集会. 東京, 10月. [第4回看護経済・政策研究学会学術集会プログラム集 2013; 2-5]
- 3) 田中幸子. (シンポジウム: 看護職の Healthy Work Environment の探求) 看護職が語る就業継続のために求める Healthy Work Environment. 第4回日本看護評価学会学術集会. 東京, 3月.
- 4) 川原由佳里 (日本赤十字看護大), 湯本敦子 (獨協医科大), 鏈溝和子 (母子保健推進会議), 田中幸子, 小川景子 (東海大学医療技術短期大). (一般演題 (示説): 5群 看護理論・歴史) 日本の母子保健行政の歴史 (第一報) - 妊産婦及び乳幼児の保健指導の変遷に焦点を当てて -. 第33回日本看護科学学会学術集会. 大阪, 11月. [日看科学会講集 2013; 33回: 495]
- 5) 伊藤厚子 (山形済生病院), 田中幸子. (一般演題・示説: 看護管理) 急性期病院で看護職が受ける職員間暴力と抑うつ現状. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 8月. [日看研会誌 2013; 36(3): 313]
- 6) 追木さやか¹⁾, 田中幸子, 香取洋子¹⁾ (山形大). (一般演題・口演: 第22群 看護教育4) 看護系大学教員の就労状況と職業性ストレスとの関連. 第39回日本看護研究学会学術集会. 秋田, 8月. [日看研会誌 2013; 36(3): 185]
- 7) 湯本敦子 (獨協医科大), 鏈溝和子 (母子保健推進会議), 田中幸子, 小川景子 (東海大学医療技術短期大), 川原由佳里 (日本赤十字看護大). (一般演題 (示説): 5群 看護理論・歴史) 日本の母子保健行政の歴史 (第

二報) - 戦後, A 県の保健婦による母子保健活動および母子衛生研究会の活動 - 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 大阪, 12 月. [日看科学会講集 2013; 33 回: 495]

8) 鍵溝和子 (母子保健推進会議), 田中幸子, 小川景子 (東海大学医療技術短期大), 川原由佳里 (日本赤十字看護大), 湯本敦子 (獨協医科大). (一般演題 (示説): 5 群 看護理論・歴史) 日本の母子保健行政の歴史 (第三報) - 地域組織活動の変遷に焦点を当てて - 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 大阪, 12 月. [日看科学会講集 2013; 33 回: 496]

9) 小川景子 (東海大学医療技術短期大), 川原由佳里 (日本赤十字看護大), 湯本敦子 (獨協医科大), 鍵溝和子 (母子保健推進会議), 田中幸子. (一般演題 (示説): 5 群 看護理論・歴史) 日本の母子保健行政の歴史 (第五報) - 家族計画運動を促進させた取り組みに焦点をあてて - 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 大阪, 12 月. [日看科学会講集 2013; 33 回: 497]

10) 田中幸子, 小川景子 (東海大学医療技術短期大), 川原由佳里 (日本赤十字看護大), 湯本敦子 (獨協医科大), 鍵溝和子 (母子保健推進会議). (一般演題 (示説): 5 群 看護理論・歴史) 日本の母子保健行政の歴史 (第四報) - 優生保護法の立法過程に焦点を当てて - 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 大阪, 12 月. [日看科学会講集 2013; 33 回: 496]

11) 菊池麻由美. (一般演題/口演 1 群: コミュニケーション) 筋ジストロフィー病棟看護師の患者の意を汲み取って働きかける実践. 日本看護技術学会第 12 回学術集会. 浜松, 9 月.

12) 佐竹澄子. (一般演題/示説 6 群: 安楽) 健常者における音刺激の自律神経活動への影響. 日本看護技術学会第 12 回学術集会. 浜松, 9 月.

13) 青木紀子. (一般演題/示説 3 群: 看護技術教育 1) 排泄援助の文献検討. 日本看護技術学会第 12 回学術集会. 浜松, 9 月.

14) 高塚綾子, 加藤章子 (東京医療保健大), 徳永瑞子 (上智大). (ポスター発表: Po-Africal-Francophone Africa) ART 治療後の自己認識の変化と病気との和解 - 中央アフリカ共和国の調査から - 第 28 回日本国際保健医療学会学術集会. 名護, 11 月.

15) 加藤章子 (東京医療保健大), 高塚綾子, 徳永瑞子 (上智大). (ポスター発表: Po-Africal-Francophone Africa) 中央アフリカ共和国の 10 代女性の妊娠・出産に関する意識と意味. 第 28 回日本国際保健医療学会学術集会. 名護, 11 月.

16) 渡邊奈穂. (一般演題研究報告・実践報告 (口演): 第 21 群 交代制勤務) 看護師の「勤務表文化」の実態に関する調査研究. 第 17 回日本看護管理学会学術集会. 東京, 8 月.

IV. 著 書

- 1) 渡邊奈穂. 第 2 章: 事例から看護管理と倫理を考える 2. 看護師自身の権利を守る 事例 15. 独身ばかりに偏った土日勤務, 事例 17. 常態化した未払い残業, 事例 21. 患者のクレーム対応. 鶴若麻里¹⁾, 倉岡有美子¹⁾ (聖路加看護大) 編. 看護管理と倫理の考えかた: 臨床のジレンマ 30 事例を解決に導く. 東京: 学研メディカル秀潤社, 2014. p.99-102, 108-12, 130-4.

看護管理学

教 授: 永野みどり 看護管理学・褥瘡ケア・ストーマケア

教育・研究概要

I. 教育

学部の教育として, 前期の 3 年生の必修科目「看護マネージメント」と後期の 2 年生の必修科目「看護情報管理学」は, 専任教授の永野みどりが担当した。看護総合演習Ⅲは, 複数の担当教員の一人として担当した。2 名の 4 年生の必修科目「卒業研究」の研究指導を担当した。

II. 研究

1. 褥瘡対策体制の質指標に関する研究

平成 21 年度から 23 年度まで科学研究費補助金を得て実施していた研究課題「病院における褥瘡対策体制の質評価指標の開発 (課題番号 21592685)」の調査結果の分析と成果について, 第 22 回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会において, シンポジストとして, 「看護管理者の認定看護師への支援 - 褥瘡対策体制における認定看護師のやりがいに関する質問紙調査 -」を発表した。また, 同学会にて「病院の褥瘡対策体制における看護部門ならびに多職種の役割機能」というテーマで口演にて発表し, 会長賞を授与された。その他に, 共同研究者の岸田風が第 4 回日本看護評価学会学術集会で口演発表した「皮膚・排泄ケア認定看護師 (WOCN) の職場への満足度と褥瘡対策活動への看護管理者との認識の相違」の研究に共同研究者として助言した。

2. ストーマ外来のケアニーズに関する研究

1996 年から 2012 年にストーマ外来を利用者の保有するストーマと受診日についてストーマ外来の独自の記録と電子カルテから調査した。また, 2009 年~2012 年の利用者の年齢について, 電子カルテから調査した。その成果を第 31 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会で「ストーマ外来

を利用するオストメイトのケアニーズ」について示説で発表した。

3. 看護実践環境に関する研究

平成 26 年度科学研究費助成事業（研究種目）基盤研究（B）による補助金の交付を受けて研究分担者として研究を実施する（課題番号）24390476（研究課題名）看護職の Healthy Work Environment 特性の解明と管理者支援に係る分担金の分担金 260,000 円を得て、共同研究者として、質問紙調査の作成等や成果発表にかかわった。

「点検・評価」

学部教育において、前年度の経験を生かして、授業などを工夫して更新した。看護マネジメントは、関心を持たない学生が多いので、広い看護管理の領域から学生が興味を持ち臨床でも重要な内容を厳選し、興味に結びつけることが課題である。看護情報管理論のグループワークによる演習では、個人の評価が困難でまじめに取り組んでいる学生への良いフィードバックが十分でなかった。グループワークの方法や課題提出の方法など、適切な評価につながるように、授業内容と教育方法の検討が課題である。

研究においては、学会発表が筆頭演者として2つの演題を発表できた。ひきつづき、原著の作成が課題である。データ入力や英訳等の委託費が不足しており、競争的な研究費の獲得も重要な課題である。

研究業績

II. 総説

- 1) 永野みどり. 褥瘡対策担当 WOCN への看護管理者の支援. 日創傷オストミー失禁管理学会誌 2014; 17(4): 281-5.

III. 学会発表

- 1) 永野みどり. (認定看護師委員会企画パネルディスカッション: 認定看護師活動を推進するために～活動の実際と期待されること～) 看護管理者の認定看護師への支援-褥瘡対策体制における認定看護師のやりがいに関する質問紙調査-. 第 22 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 静岡, 5月. [日創傷オストミー失禁管理学会誌 2013; 17(2): 100]
- 2) 永野みどり, 緒方泰子 (東京医科歯科大), 徳永恵子 (宮城大), 石久保雪江 (浜松医科大), 石田陽子 (山形大). 病院の褥瘡対策体制における看護部門ならびに多職種役割機能. 第 22 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 静岡, 5月. [日創傷オストミー失禁管理学会誌 2013; 17(2): 108]

- 3) 岸田 風¹⁾, 永野みどり, 緒方泰子¹⁾ (¹東京医科歯科大). (一般演題(口演): 第 1 群 教育・キャリア開発) 皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCN)の職場への満足度と褥瘡対策活動への看護管理者との認識の相違. 第 4 回日本看護評価学会学術集会. 東京, 3月. [日看評価会講抄集 2014; 4 回: 34]

- 4) 緒方泰子¹⁾, 勝山貴美子²⁾, 田中幸子, 菅田勝也 (藍野大), 永野みどり, 佐藤可奈¹⁾, 湯本淑江¹⁾ (¹東京医科歯科大), 安川文明²⁾ (²横浜市立大), 橋本由生 (日本医療評価機構). 看護職にとつての働きやすさと職場環境: A グループ病院の看護職への質問紙調査より. 第 51 回日本医療・病院管理学会学術総会. 京都, 9月. [日医療病管理学会誌 2013; 50(Suppl.): 190]

- 5) 勝山貴美子 (横浜市立大), 緒方泰子 (東京医科歯科大), 田中幸子, 永野みどり, 加藤 憲 (愛知県医師会総合政策研究機構), 菅田勝也 (藍野大). 北米の看護管理者が考える Healthy Work Environment 特性およびその創出にかかわる看護管理者の能力に関する調査. 第 51 回日本医療・病院管理学会学術総会. 京都, 9月. [日医療病管理学会誌 2013; 50(Suppl.): 192]

- 6) 三谷佳子¹⁾, 永野みどり, 緒方泰子¹⁾, 五十嵐歩¹⁾, 岡本有子¹⁾ (¹東京医科歯科大). 介護老人福祉施設における褥瘡対策に関する職員教育の実態とその関連要因. 第 51 回日本医療・病院管理学会学術総会. 京都, 9月. [日医療病管理学会誌 2013; 50(Suppl.): 163]

- 7) 永野みどり, 俣田悦子¹⁾, 安藤禎子¹⁾ (¹東京医科歯科大), 徳永恵子. ストーマ外来を利用するオストメイトのケアニーズ. 第 31 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会. 仙台, 2月. [日ストーマ・排泄会誌; 2014; 30(1): 177]

- 8) 緒方泰子¹⁾, 勝山貴美子 (横浜市立大), 田中幸子, 菅田勝也 (藍野大), 佐藤可奈¹⁾ (¹東京医科歯科大), 永野みどり. 看護実践環境と看護職の健康・職務満足との関連: A グループ病院看護職への質問紙調査. 第 17 回日本看護管理学会学術集会. 東京, 8月. [第 17 回日本看護管理学会学術集会抄録集 2013; 210]

成人看護学

教授: 藤野 彰子	がん看護学, 緩和ケア
教授: 高島 尚美	周手術期看護学, クリテikalケア
講師: 村田 洋章	周手術期看護学, クリテikalケア
講師: 瀬山 留加	がん看護学, 家族看護
講師: 寺門 亜子	がん看護学, 緩和ケア
講師: 中野真理子	周手術期看護学, クリテikalケア

教育・研究概要

学部教育としては、概論および健康レベルに応じた4つの臨床看護学（慢性期・周手術期・がん・急性期）を学内授業で学び、慢性期および周手術期看護学実習で看護実践能力として習得するプロセスを重視し、教育評価を実施した。研究においては、各教員が、がん看護学分野および急性・重症患者看護学分野におけるテーマを追究した。

I. 教育

成人看護学においては、対象理解に基づいた問題解決的思考を育成するために看護過程の展開を重視した看護学実習を展開している。前年度の実習評価を踏まえて、学内授業および実習教育の改善を図っている。慢性期看護学実習では、シャドウ実習や血液浄化部での実習を調整し患者との関わりの時間を長くした結果、関わりや看護過程の展開に善い影響がみられた。また、最終日に全体カンファレンスを実施したことでの学びの共有効果が得られた。成人看護学実習全体として、看護過程の展開における情報収集を含めたアセスメントや看護計画を活用した実践に対する学生評価は概ね肯定的であったが、教員評価としては部分的に低い傾向があった。そのため学内でも paper patient や video patient を活用し、アセスメントや介入に必要な看護技術としてストマや点滴の管理、救急蘇生、心電図診断等を体験型教育として実施した。また、各科目では個人へのフィードバックも丁寧を実施した上で実習教育をした。

また実習環境・体制整備においては、臨床実習指導者と振り返りをすることで連携を強化した。特に手術室実習では学生レポートへの担当看護師からのコメントがあり、可視化できない実践者の思考や使命感が記載されていた。学生もコメントによって「仕事の姿勢が学べる」「大切にされた感じがある」と肯定的に反応していた。看護実践能力を獲得するためには、実習経験を学生自身が意味づけ、主体的に学習することが重要である。学生は、教員が臨床の場に居て適時振り返りをする、記録を基に看護過程展開に対するヒントを出す、ともに実践する、安全を確保する、などの教育的介入に対して概ね肯定的に評価をしていた。これらは継続したい点であり、今後も関係者と役割分担を調整し、適切な相互作用をしながらの実習指導が期待される。

II. 研究

1. がん患者の看護に関する研究

1) 認知症がん患者の看護支援プログラムの開発

認知症がん患者を支援する看護師は、コミュニケーションや苦痛症状のアセスメント、介入後の評価等に際して、患者の中核症状や周辺症状の影響から困難感を抱えやすい。そこで、認知症がん患者の看護支援プログラムの開発を行うこととした。本年度は、実際にケアを行っている看護師24名を対象として、質的研究手法による因子探索研究を行い認知症がん患者の生活調整を支える看護師の実践プロセスを明らかにした。結果として、認知症がん患者の生活調整を支える看護師は、中核症状や周辺症状を抱える患者を受け持ち時から目標や具体策を導くための【その人らしさを模索しながらの看護展開】を行っていた。しかしながら、【拭い去れない懸念】として、がん治療や苦痛症状に伴う『患者の命の安全と自律の狭間で生じる揺れ』や『実態の掴みきれない患者の苦痛症状との対峙』と常に向き合いながら支援していることが明らかになった。また、それらの懸念の解決に影響する因子も明らかにすることができた。今後は、認知症がん患者のアセスメントや生活調整に有効な援助を明らかにし、評価研究を進める予定である。

2) 外来放射線療法を受けるがん患者と家族員への支援に関する研究

外来放射線療法を受ける患者と家族員の心理・社会的苦痛に対する支援モデルの開発を進めている。昨年度、文献検索を行い、治療終了後にグループ療法を行うことで一定の効果が得られるという仮説が導き出された。本年度は、それらの導入にあたり臨床家との実現可能性の検証や調整を行った。その結果として、テーマ性のある教育的介入であれば、検証可能となった。今後はプログラムの中身について検討し、具体的な介入モデルを開発する予定である。

3) がん化学療法に伴う末梢神経障害に関する研究

多施設との共同研究として、がん化学療法に伴う末梢神経障害の尺度開発を進めている。本年度は、新規尺度の信頼性と妥当性を検証するための臨床家との調整、倫理審査を受け、調査を開始した。今後は、結果を分析し、新規尺度を活用した介入研究を行う予定である。

2. 急性・重症患者の看護に関する研究

1) ICU入室患者のストレス経験の分析

ICUに入室し24時間以上人工呼吸器を装着している患者のストレス経験に関する研究を継続している。1施設のGICUに入室し12時間以上人工呼吸器管理を受けた認知障害のない成人患者を対象に、ICU Stressful Experiences 質問紙を用い構造的な

接法で聴取し関連要因を診療録から収集し分析した。その結果、95名のデータが得られた。強いストレス経験項目は、“のどの渇き”“会話のしづらさ”“気管チューブの不快”等で、関連要因は、緊急入室、挿管時間、既往の無さ、鎮静度の浅さ、等であった。今後は、ICU入室患者のComfort Careのための看護支援プログラムを提案する予定である。

2) 胃がん周術期患者の回復状況と関連因子

胃癌胃切除周術期の身体活動量の実態と、生活・心理的状态や健康関連 HR-QOL などの関連因子を明らかにすることを目的に、胃癌胃切除術後患者の、入院前から術後2ヵ月まで身体活動量と関連因子を調査をし、論文化した。調査対象は14名で、入院中～術後2ヵ月までの身体活動量の関連因子は、術前活動量、運動習慣、痛み、食事摂取量、併存疾患、Alb 値、活動意欲、活動の自信、HR-QOL の活力や身体サマリスコアであった。

また事例研究として、幽門側胃切除 Roux-en-Y (以下 R-Y) 再建術後早期に、器質的および形態学的異常がないにもかかわらず、残胃排出障害と残胃拡張をきたした症例報告を行った。本症の発生には、基礎疾患、食習慣や心理的要因など、さまざまな因子が複合的に関与したものと推察された。

胃がん術後患者の看護については、術後早期の外來を、「体力回復」と「食事のリハビリ」の時期としてとらえた、継続的なフォローアップを今後検討する予定である。

3) 人工呼吸器装着患者への看護支援プログラム開発

人工呼吸器装着中の患者の体験を明示しつつ、プログラム構築するためにデータ分析を進めている段階にある。本研究では、現在のところ NPPV を受ける患者の体験と対処が明らかになりつつある。その中では、「時間経過で変化する治療体験」や「自ら試行錯誤しながらの対処」が特徴的であった。また、気管挿管下で人工呼吸管理された患者の体験と大きく異なっている点は、NPPV 施行中の患者は「生活と調和できる」点を、NPPV 継続意欲の維持へと活用していたことであった。今後とも、データ収集を継続し、プログラム開発並びに介入効果検証を行って行く予定である。

4) クリティカルケア領域における看護師の身体抑制に埋め込まれた臨床の「知」の解明

看護師の身体抑制という看護実践の中に埋め込まれている看護師の臨床の「知」を形式知として可視化することを目的に、看護学生・新人看護師・ベテラン看護師の臨床の「知」の発達の構造を探求中で

ある。まず、看護学生の身体抑制に関わる看護の学びのプロセスを質的に分析した。その結果、学生は豊かな感性で患者、家族の気持ちを汲み取り、高い倫理的感受性で葛藤しながら、自ら折り合いをつけるという学び方をしており、そして、看護師となり組織人としての役割、責任も意識しつつ、クリティカルケア領域ではセーフティマネジメントの視点から一時的な抑制は必要であるという信念が形成されつつ、提供したいケアが育ち始めていることが明らかとなった。今後は、学生時代に形成されつつあった臨床の「知」のその後の発達とその要因を検討する予定である。

「点検・評価」

教育においては、教育評価に基づいた改善をしたことで、より効果的な内容・方法で実施できた。今後の取り組み事項として、学生の問題解決能力を高めるための批判的思考や人間関係能力育成の必要性を確認した。そのため、教員間でカリキュラムの重要概念である批判的思考や症状マネジメントやセルフマネジメントの共通理解を図りながら、実践能力育成のための新たな統合的科目として成人看護実践論(30時間)を設置することとした。授業設計としてグループ学習を軸としたアクティブラーニングを計画した。学習内容が抱負になりすぎる傾向も予測されるため、授業評価による改善を継続する必要がある。実習教育においては、学生数増を視野に入れ実習フィールドを開拓したため、環境調整を行い充実した教育を継続したい。大学院教育を含めた教員配置として、新たに講師2名が配属となり教育体制が強化された。その結果、従来実習と並行するため人員配置が乏しくなっていた学内演習科目の指導の充実等が図られた。

研究においては、教員の7割近くが外部資金を獲得し、それぞれが積極的に取り組んでいる。今後も研究内容を教育に還元すべく、学会発表のみならず論文化することが課題である。そのために、学内・学外研究者とも協力し、時間や環境のマネジメントをしながら取り組んでいきたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 高島尚美, 中田浩二, 渡邊知映, 村田洋章, 河合麻衣子, 小曾根基裕, 三森教雄, 小林一成, 小村伸朗, 柏木秀幸. 胃癌胃切除周術期2ヵ月までの患者の身体活動量と関連因子. 慈恵医大誌 2014; 129(1): 1-9.
- 2) 河合麻衣子, 中田浩二, 川村雅彦, 矢野文章, 志田

敦男, 三森教雄, 小村伸朗, 高島尚美, 矢永勝彦. 胃切除後早期の食事への適応障害により残胃拡張をきたした1例. 慈恵医大誌 2013; 128(6): 229-34.

- 3) 瀬山留加, 武居明美¹⁾, 神田清子¹⁾ (群馬大). 進行がん患者の家族が抱える苦しみの検討. 日看研会誌 2013; 36(2): 79-86.
- 4) 渡部節子(横浜市立大), 武田宜子(国際医療福祉大), 高島尚美. 我が国における人工股関節全置換の術前皮膚処置方法の根拠と感染管理システムとの関連. 日運動器看会誌 2013; 8: 48-56.

II. 総 説

- 1) 飯田英男(奥野法律事務), 嶋森好子(東京都看護協会), 高島尚美. 医療と法律の関係から医療安全とチーム医療を読み解く. 看管理 2013; 23(5): 329-35.
- 2) 高島尚美. 【クリティカルシンキングは終わらない】現在の教育状況のなかにクリティカルシンキングをどのように取り入れてゆけばよいか. 看教 2013; 54(6): 469-75.
- 3) 深井喜代子(岡山大), 齋藤やよい(東京医科歯科大), 田中裕二(千葉大), 佐伯由香(愛媛大), 高島尚美, 吉田みつ子(日本赤十字看護大), 日本看護技術学会編集委員会. 論文投稿のA to Z 看護学発展の基礎となるもの. 日看技会誌 2013; 12(1): 35-6.

III. 学会発表

- 1) 瀬山留加, 藤本麗子, 小澤おかり. (口演 第57群: 高齢者のがん2) 認知症がん患者の生活調整を支える看護師の看護実践プロセス. 第28回日本がん看護学会学術集会. 新潟, 2月.
- 2) 西開地由美, 村田洋章, 高島尚美. (一般演題(口演) 第3群: 家族看護) ICUに緊急入室した患者の家族に対するエキスパートナースのコミュニケーションプロセス. 第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 神戸, 5月. [日クリティカルケア看学誌 2013; 9(2): 110]
- 3) 久保善子, 嶋澤順子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価(第2報) 学習による主体性の変化. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 7月. [日看研会誌 2013; 36(3): 218]
- 4) 嶋澤順子, 久保善子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価(第1報) 独自性欲求の学年比較. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 7月. [日看研会誌 2013; 36(3): 218]

5) 今井 望, 古沢身佳子, 白崎和美, 大槻穰治, 近江禎子, 高島尚美. (一般演題 ポスター4:呼吸④) 外傷歴がなく自然気胸を発症した一例. 第41回日本集中治療医学会学術集会. 京都, 2月.

6) 村田洋章, 米澤裕子, 讀井將満, 山口庸子, 土屋留美¹⁾, 八木橋智子¹⁾ (自治医科大), 中山和弘(聖路加看護大), 高橋 理(聖ルカ・ライフサイエンス研究所), 瀧浪将典, 高島尚美. (一般演題 ポスター31:鎮痛・鎮静・せん妄⑤) 心臓血管手術患者における術前の心理状態やストレス対処力と術後せん妄との関連分析. 第41回日本集中治療医学会学術集会. 京都, 2月.

7) 高島尚美, 久保沙織, 米澤裕子, 坂木 孝, 山口庸子, 村田洋章, 卯野木健(筑波大), 米倉佑貴(東京大), 瀧浪将典. (一般演題 ポスター38:その他①) 12時間以上の人工呼吸器装着患者のICU Stressful Experiences. 第41回日本集中治療医学会学術集会. 京都, 2月.

8) 挾間しのぶ, 高島尚美. (一般演題(口演) 第8群: 看護教育1) 急変対応におけるシミュレーション教育の効果の検討 教育方法による比較. 第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 神戸, 5月. [日クリティカルケア看学誌 2013; 9(2): 130]

9) 芦田 薫, 高島尚美. 心臓外科で開胸術を受けた患者の創部管理に対する効果的な看護支援の検討. 第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 神戸, 5月. [日クリティカルケア看学誌 2013; 9(2): 177]

10) 南部真琴, 高島尚美. (一般演題(示説)) 開心術を受けた女性の術後の手段的日常生活活動状況と気持ち. 第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 神戸, 5月. [日クリティカルケア看学誌 2013; 9(2): 178]

11) 高島尚美, 村田洋章, 河合麻衣子, 渡邊知映, 小曾根基裕, 中田浩二, 三森教雄, 小村伸朗, 柏木秀幸. (ワークショップ3: 胃術後障害に対するチーム医療) 胃癌胃切除術後の身体活動状況の変動と心理状態・QOLの関連. 第38回日本外科系連合学会学術集会. 東京, 5月. [日外科系連合誌 2013; 38(3): 609]

12) 山口庸子, 村田洋章, 讀井將満, 伊藤達彦, 中山和弘(聖路加看護大), 古賀雄二(山口大), 八木橋智子, 山本源治(東京女子医科大), 安井大輔, 米澤裕子, 高島尚美. (一般演題(口演) 第5群:せん妄1) 統一したせん妄評価の為のCAM-ICU導入に向けた取り組み. 第9回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 神戸, 5月. [日クリティカルケア看学誌 2013; 9(2): 119]

IV. 著 書

- 1) 村田洋章. 【最も新しいクリティカルケアの根拠】

せん妄 せん妄アセスメントツールに焦点を当てて。
INR：Intensive Care Nursing Review：1号。東京：
学研メディカル秀潤社，2014。p.33-41。
2) 高島尚美。CHAPTER 4：血圧。田中裕二（千葉大）
編。わかって身につくバイタルサイン。東京：学研メ
ディカル秀潤社，2013。p.66-91。

老年看護学

教授：櫻井美代子 老年看護学
准教授：草地 潤子 老年看護学

教育・研究概要

老年看護学の講義や演習では、特に嚥下障害患者と褥瘡患者への看護援助に関する知識や技術の修得について、学生の主体的学習や興味関心を惹起させる教育方法を検討している。また平成24年改正カリキュラムに伴う老年看護学実習の内容変更に向けて、新たに実習病院・施設の開拓を行うとともに、実習内容を検討している。

研究活動では領域として取り組んでいる研究は以下の二つである。

1. 「車いすを使用する高齢者の下肢浮腫の実態調査」の結果については、第33回日本看護科学学会学術集会で発表した。さらに「下肢浮腫軽減のための運動プログラムの開発」に取り組んでいる。

2. 「褥瘡予防と治癒を促進する技術」の看護基礎教育内容についての検討

実習が修了した学生を対象に、褥瘡予防の知識と技術の到達度について調査を実施し、データを分析している。

〔点検・評価〕

認定看護師および理学療法士・作業療法士による授業（演習）は、昨年度の評価を踏まえて本年度はさらに内容を吟味して実施したことにより、学生の看護実践への興味や関心を高めることができた。

老年看護学実習の時間数が多いため本年度は助教を1名増員したが、実習指導だけではなく領域内の研究や教育活動が活発になったことは良かった。今後は研究内容を継続発展させ、学術集会での発表につなげていきたい。また領域構成員のそれぞれの研究テーマを遂行し、学術論文にまとめることが課題である。

研究業績

Ⅲ. 学会発表

1) 坂東美知代，草地潤子，櫻井美代子。（一般示説6群：高齢者看護）要介護高齢者の主体的活動を支援する運動プログラムの検討－車いすを利用する高齢者の下肢浮腫の実態－。第33回日本看護科学学会学術集会。大阪，12月。

精神看護学

教授：香月 毅史 精神看護学
講師：石川 純子 精神看護学

教育・研究概要

教育では、概論、対象論、方法論の流れを踏まえ、社会的視点、生物学的視点、心理学的視点からポイントを整理して理解できる講義を考案した。1年生の精神看護学概論では、近年のセルフヘルプ、ピアサポートの活動例を紹介し、メンタルヘルスが学生の身近な問題として再認識できる機会を多く設けた。講義では、基本的学習内容を網羅し、その上で学生自身が興味を抱く内容についてさらに詳しく学ぶ機会として、DVD ビジュアル教材を使用し、さらに海外の精神医療事情を紹介することで日本の精神医療を客観視する視点を育てることを目標とした。また、精神保健の対象を患者に限定せず、学生自身が自分もまた対象の一人であることを意識できる講義を心がけた。2年生の精神看護対象論では、精神医学研究の医師が代表的な精神疾患の原因、症状、薬効、副作用を専門家の視点から解説した。その後、看護師の視点、当事者の視点から疾患を抱えた生活を捉え直し具体的な看護問題を考察する授業を行った。また、精神科医療の特徴的な視点を重視し、看護師自身のメンタルケア、家族ケア、地域での生活援助等、他の領域との連携について考察する機会を多く設けた。また、精神看護方法論では、精神保健福祉法を基本法として行われる現在の日本の精神医療・精神看護について、対象者の行動制限のとらえ方、支援の在り方についてクリティカルな視点で考察する能力を育てることを目標とした。期末試験は、SP（模擬患者）への対応を評価する実技試験を行い、コミュニケーション技術、姿勢を評価した。臨地実習では、精神科の臨床現場で、実際の患者と接することで実際の患者の思いを受け止め、共に考えることを学ぶ。患者－看護師関係が支援される側と支援する側の関係だけでなく、看護師が患者と共に生活し、病棟の環境を「耕す」という精神科特有のダイ

ナミズムも学習目標であった。4年次の総合実習では、目的目標を再度検討し、精神科スーパー救急病棟で早期治療に挑む最新医療を体験する機会を設定した。

研究活動は、東日本大震災後の一般市民の精神的影響について継続的に調査を行っている。2013年度は、全国データを中間集計し、分析を終えた。結果は6月の第14回国際精神疫学学会（14th International Congress of the IFPE ドイツ：ライプチヒ）で発表された。また、ヒューマンケアリングアプローチとディスコース分析の研究も継続的にやっている。

「点検・評価」

領域責任者が代わって1年目であった。2012年のシラバスを継承して講義内容を構築したため、シラバスの目標の達成度は評価しにくい。学生からのフィードバックは、毎回授業後のリアクションペーパーの内容から把握し、それに対する教員からのフィードバックを学生に返すことができるように工夫した。学外の当事者によるピアサポートグループを招いて直接語り合う機会を設定した。当事者の主体的活動の一環に触れる機会を設定することで、学生の患者・当事者に対するイメージが多様化した。座学では難しいことも、実体験で容易に獲得できる好例であった。

2012年度の課題であった学外の研究費の獲得については、2013年度は科学研究費補助金による研究を継続するという形で達成された。また、科研費による研究課題に関連した論文「東日本大震災後に一般市民が抱える精神的影響としての不眠」が2013年11月不眠研究会大熊賞を受賞した。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 香月毅史, 塩田久美子¹⁾, 三井督子¹⁾ (1 淑徳大).
東日本大震災後に一般市民が抱える精神的影響としての不眠. 不眠研究 2013; 15-22.

小児看護学

教授：濱中 喜代 小児看護学

准教授：高橋 衣 小児看護学

教育・研究概要

I. 外来における子どものヘルスプロモーション促進に向けた看護プログラムに参画した学生の学び

2年前に行った外来における子どものヘルスプロモーション促進のために作成された看護プログラムの実践に参画した学生がどのような学びを得たのかを明らかにする研究についてまとめ、学会誌に報告した。看護系大学の学生20名を対象にレポートの内容を質的に分析した結果【対象である子どもの理解】【プログラムの実践における関わり方】等8カテゴリーが抽出され、学生への学習効果と外来看護の発展性が示唆された。

II. 難病の子どもの親の会会員の小児慢性特定疾患治療研究事業に対する要望と期待

昨年度に引き続き、難病の子どもの親の会・会員に対し、小児慢性特定疾患治療研究事業（以下、小慢）およびその他の制度・支援に関する利用状況および要望、期待、思いについて明らかにするための調査研究の結果を質的に分析した。小慢に対する満足度はとても満足・満足で3割あり、【感謝の思い】【安心】がある一方であまり・全く満足していないも2.5割あり、【年齢制限の不安】【将来への不安】【地域格差の問題】があがっていた。全体に切実な思いや関連しあう連鎖的な問題、個性を含めた多様な内容が明らかになり、早急な対応や支援の必要性が示唆された。これらのことを量的結果も含めて関連学会で報告した。

III. 小児看護に携わる看護師の倫理教育受講経験と「子どもの権利」を擁護する看護の現状—印象に残っている内容・事例についての自由記載から—

小児看護に携わる看護師を対象として、関東圏内の小児専門病院・大学病院・一般病院6施設において、質問紙による調査研究を行った。量的結果はすでに関連学会に報告しているが、印象に残っている内容・事例についての自由記載に関する結果を質的に分析した。結果、看護基礎教育では幅広い学びをしていたが、その内容は、学んだ項目や科目名の記

載にとどまる傾向にあった。現任教育では、子ども特有の倫理についての学びが多く記載されていた。一方、看護基礎教育・現任教育ともに、倫理教育受講した内容について約半数が「[忘れた]」と回答していた。教育方法の工夫が課題である。これらのことを日本小児看護学会第23回学術集会に報告した。

Ⅳ. 小児看護に携わる看護師の子どもの権利擁護実践に至る内的要因の形成過程

小児看護に携わる看護師を対象として、グラウンデッド・セオリー法を用いた質的帰納的研究を行った。結果、小児看護に携わる看護師の子どもの権利擁護実践に至る内的要因の形成過程は、【子どもが見えるようになる】プロセスとして明らかになった。論文として作成予定である。

「点検・評価」

Iの研究については成果を学術雑誌に掲載できたことにより、他大学の方々と共有できたことは意義があった。IIの研究は分析結果をまとめ発表することができ、親の会の活動や社会制度の変革に繋がった点で評価できた。IIIの研究は、今後の看護基礎教育・現任教育における看護倫理教育・子どもの権利擁護に関する教育の示唆が得られ意義があった。IVの研究では、小児看護実践・小児看護教育に適応し検証を進めることによって、小児看護に携わる看護師の子どもの権利擁護実践を高めることにつながると評価できた。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 石井まりえ, 濱中喜代, 及川郁子 (聖路加看護大), 川口千鶴 (順天堂大), 長谷川桂子 (岐阜県立看護大), 山本美佐子 (四日市看護医療大), 朝野春美¹⁾, 築瀬順子¹⁾ (自治医科大). 外来における子どものヘルスプロモーション促進に向けた看護プログラムに参画した学生の学び. 日小児看護学会誌 2013; 22(2): 9-16.
- 2) 大見サキエ (天理医療大), 坪見利香 (浜松医療大), 岡田周一 (元浜松医療大), 本郷輝明 (磐田市立総合病院), 河合洋子 (宝塚大), 金城やす子 (名桜大), 宮城島恭子 (浜松医科大), 鈴木恵理子 (淑徳大), 濱中喜代. 全国調査にみるがんの子どもの教育支援に関する医師の取り組みの現状 家族・看護師・学校教員との連携を中心に. 日小児血がん会誌 2013; 50(4): 598-606.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 濱中喜代, 高橋 衣, 石井まりえ. 難病の子どもの親の会会員の小児慢性特定疾患治療研究事業に対する要望と期待. 日本小児看護学会第23回学術集会. 高知, 7月.
- 2) 濱中喜代, 高橋 衣, 石井まりえ. 難病の子どもの親の会会員の小児慢性特定疾患治療研究事業等に対する思い. 第60回日本小児保健協会学術集会. 東京, 9月.
- 3) 高橋 衣, 濱中喜代. 倫理教育受講経験と「子どもの権利」を擁護する看護の現状-印象に残っている内容・事例についての自由記載から-. 日本小児看護学会第23回学術集会. 高知, 7月.
- 4) 嶋澤順子, 久保善子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価 第1報-独自性欲求の学年比較-. 日本看護研究学第39回学術集会. 秋田, 8月.
- 5) 久保善子, 嶋澤順子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価 第2報-学習による主体性の変化-. 日本看護研究学第39回学術集会. 秋田, 8月.
- 6) 瀧田浩平, 西澤瑞恵, 前田梨恵, 鶴谷恵奈, 高橋萌子, 濱中喜代, 高橋 衣. 点滴トラブルにより抜針となった小児および点滴管理の状況の実態調査. 第10回慈恵看護研究会. 東京, 3月.

母性看護学

教授: 茅島 江子 女性の健康と看護ケア
准教授: 細坂 泰子 周産期ケア, 新生児清潔ケア, 育児

教育・研究概要

女性のライフスタイル各時期における様々な健康問題について研究し, 母性看護における看護援助のあり方について考察した。

I. 産後4～5ヶ月の女性の性機能と影響要因

本研究は, 産褥期における性機能の回復の実態および性機能に影響する要因の追求を目的とし, 2010年6～8月に乳児健診(4ヶ月健診)のために保健センターを来所した女性を対象に自記式質問紙調査を行った。平均年齢は32.3 ± 4.6歳, 平均産後週数は18.6 ± 1.9週で, 初産婦52名(44.8%), 経産婦64名(55.2%)であった。性交再開者は82名(53.9%)で, 平均再開時期は10.0 ± 4.7週であった。女性の

性機能に関する指標（FSFI）の平均総合得点は21.77 ± 5.83点で、【性欲】と【性的興奮】のドメイン得点は他のドメイン得点よりも低かった。FSFI 総合得点は、月経が再開し、育児協力があり、身体の調子が良好で、性交再開への心配がなく、育児不安が低い女性の方が有意に高く、性機能が良好であった。

II. 新生児清潔ケアの構築—新生児の匂いと細菌学的調査から—

本研究ではランダム化比較試験を用い、新生児の体温変化、細菌数変化、匂い指数、体重変化の客観的指標を比較検討し、最適な新生児清潔ケアを構築することを目的とした。現在までに対象者24名からデータを得ており、現在も調査中である。

III. 混合研究法を用いた理想的な新生児清潔ケアの探索

全国産科施設における属性と新生児清潔ケア選択傾向の同定、および助産師の新生児清潔ケアに対する思いとケア実施の際の背景状況の質的データから、ケア選択に影響する要因を混合研究法により明らかにして理想的な新生児清潔ケアを探索することを目的に調査を行った。出産当日はドライテクニック（65.2%）が、生後1日目以降は沐浴（74.9%）がもっとも多かった。清潔ケアの選択は職員数、特に助産師数が多いほど有意にドライテクニックを選択していたが、分娩件数や助産師の業務量は寄与しなかった。

現在の清潔ケアは施設によって沐浴かドライテクニックかが規定されているが、新生児の状態によって臨機応変に使い分け、かつ十分な情報を提供したうえで母親の希望も加味したケア選択が理想である。

IV. 日本における母体搬送コーディネーターの機能と役割に関する検討

母体搬送コーディネーターに関する実態調査を47都道府県に実施した結果、コーディネーターを設置しているのは14都道府県であった。設置場所は医療機関が多く、職種は医師、助産師が多かった。業務内容は転院搬送のみ調整する群と転院搬送・119番通報ともに調整する群に分かれた。地域別にみると比較的大都市に設置の傾向がみられた。

「点検・評価」

産後4～5ヶ月の女性の性機能は、性欲と性的興

奮が低下し、月経再開、育児協力の程度、身体の調子、不安などが影響することが明らかになった。今後は、女性の性的健康を高めるための支援について検討していく予定である。

新生児清潔ケアの構築研究は現在も調査が続けられている。データを分析し、今後はデータを速やかに公表していく予定である。混合研究法を用いた理想的な新生児清潔ケアの探索研究では、現在の清潔ケアの実態やケア選択に寄与する因子が明らかになった。混合研究法の結果から新生児のアセスメントや負担を最優先することを前提にして、新生児の清潔保持よりも負担が優先される場合はドライテクニックを、新生児の状態が安定しており産科病棟の職員に余裕がある場合は従来の沐浴を推奨したい。

母体搬送コーディネーターの機能と役割に関する検討においては、得られたデータを分析し、今後発表していく予定である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Hososaka Y, Nukita H, Ishii Y, Onishi A, Isonishi S, Ito F. Bacteriological safety of human milk storage. *Jikeikai Med J* 2013; 60(3) : 17-22.
- 2) 今村久美子, 茅島江子. 産後4～5ヶ月の女性の性機能と影響要因. *日性科会誌* 2013; 31(1) : 15-26.

III. 学会発表

- 1) 茅島江子. (保健・看護分科会：大学生への性の健康支援) 月経と看護. 第51回全国大学健康管理協会 関東甲信越地方部会研究集会. 水戸, 8月. [第51回全国大学健康管理協会関東甲信越地方部会研究集会プログラム・抄録集 2013; 50-3]
- 2) 細坂泰子, 抜田博子, 茅島江子. (一般口演 O23 群：母性看護・助産2) Mixed Methodを用いた新生児清潔ケアの実態調査. 第33回日本看護科学学会学術集会. 大阪, 12月.

地域看護学

教授：嶋澤 順子 地域看護学
 講師：久保 善子 地域看護学
 講師：上田 修代 地域看護学

教育・研究概要

地域看護学では、教員が各々に3つの研究テーマについて取り組んでいる。1つ目は、独立型訪問看護ステーション看護師による在宅精神障害者地域生

活支援モデル開発に関する研究である。在宅精神障害者の地域生活支援においてますます重視される訪問看護の機能を明らかにすることを旨とし、多様な地域にある独立型訪問看護ステーションでの調査を進めている。2つ目は、産業看護職のキャリアに関する研究を行っており、本年度は特にキャリアアンカーに関する研究を行っている。3つ目は、保健師のリフレクションに関する研究を行っており、本年度は新任期保健師のリフレクションスキルの獲得内容とリフレクション過程に関する研究を主にしている。

また、昨年に引き続き、地域看護学として教育内容の評価改善を目的とした2つの研究テーマに取り組んだ。1つは、地域看護学実習の評価内容の改善を図ることを目的として、本学看護学生の「地域看護学実習Ⅱ」における実習の学びを分析した。もう一方は、保健師教育課程選択制に関わる現状と課題を明らかにすることを目的とした研究であり、どちらの研究結果も本学の雑誌に投稿し、すでに発刊されている。

さらに、今年度から附属第三病院との共同研究として、地域生活で服薬継続につながるための院内DOTSにおける看護援助をテーマに、大学病院と地域との医療連携のあり方も視野に入れながら取り組んでいる。

「点検・評価」

各研究については、整理した調査データを調査対象者にフィードバックし、さらに各学会でその成果を発表した。

新カリキュラムの進行に即して、講義内容を新しく設定し、開講している。平成23年度から3年次に新たに開講した実習と4年次に開講している総合実習では、その内容の充実に向けて、実習場所の開拓を進めている。各々の実習終了後には、学生の習得状況を分析し、実習内容の充実へ反映できるように取り組んでいる。さらに、平成27年度から開始となる保健師の教育課程選択制学生が受講する公衆衛生看護学関連の科目・実習内容の検討を鋭意進めている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 久保善子, 嶋澤順子, 高橋郁子, 笹井靖子. 行政・産業・学校保健実習での学生の学びの特徴. 慈恵医大誌 2013; 128(3): 109-19.
- 2) 高橋郁子, 嶋澤順子, 久保善子, 笹井靖子. 看護系

大学における保健師教育に対する学生の認識 A 大学の保健師教育課程選択制に関わる現状と課題. 慈恵医大誌 2013; 128(3): 99-107.

- 3) 高橋郁子, 嶋澤順子, 久保善子, 笹井靖子. 高齢者施設における介護職員の手洗いに関する意識調査 感染予防のための手洗いの促進にむけて. 訪問看護 2013; 18(4): 320-4.
- 4) 久保智英¹⁾, 高橋正也¹⁾, 劉 欣欣¹⁾ (1 労働安全衛生総合研究所), 東郷史治²⁾, 田中克俊 (北里大), 島津明人²⁾ (2 東京大), 久保善子, 鎌田直樹 (神戸製鋼所), 上杉淳子 (理化学研究所). 勤務時間に対する裁量権の1年後の変化からみた労働者の疲労と睡眠の客観評価. 労安全衛特別研報 2013; 43: 137-41.
- 5) 高橋正也¹⁾, 久保智英¹⁾, 劉 欣欣¹⁾ (1 労働安全衛生総合研究所), 東郷史治²⁾, 田中克俊 (北里大), 島津明人²⁾ (2 東京大), 久保善子, 内山鉄朗 (神戸製鋼所). 勤務時間の裁量権と健康および労働関連指標に関する追跡調査. 労安全衛特別研報 2013; 43: 127-36.
- 6) 久保智英¹⁾, 高橋正也¹⁾ (1 労働安全衛生総合研究所), ミカエル・サリーネン (フィンランド国立労働衛生研究所), 久保善子, 鈴木初子 (愛知医科大). 生活活動と交代勤務スケジュールからみた交代勤務看護師の疲労回復. 産業衛誌 2013; 55(3): 90-102.

III. 学会発表

- 1) 久保善子, 嶋澤順子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価 (第2報) 学習による主体性の変化. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 7月. [日看研会誌 2013; 36(3): 218]
- 2) 嶋澤順子, 久保善子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価 (第1報) 独自性欲求の学年比較. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 7月. [日看研会誌 2013; 36(3): 218]
- 3) 久保智英¹⁾, 高橋正也¹⁾ (1 労働安全衛生総合研究所), ミカエル・サリーネン (フィンランド国立労働衛生研究所), 久保善子, 鈴木初子 (愛知医科大). 交代勤務看護師における個人としての生活活動時間の長さとは疲労回復. 第86回日本産業衛生学会. 松山, 5月.

在宅看護学

教授：北 素子 在宅看護学
 講師：吉田 令子 在宅看護学
 講師：遠山 寛子 在宅看護学

教育・研究概要

在宅看護学では学部教育として、2年次後期の在宅看護学概論から3年前期の在宅看護学援助論、3年後期から4年前期にかけての在宅看護学実習という一連の学習過程において、在宅看護の特徴を踏まえた看護過程の展開能力修得に重点をおいており、継続的にその教育評価研究を行っている。また、各教員の関心テーマに沿った研究を進めた。

I. 在宅における看護過程に重点をおいた演習型授業評価—学生の授業評価からの検討

従来、在宅看護学の演習では、事例を用いたロールプレイングを実施し、学生の実践力強化を目指した授業展開を行ってきた。カリキュラム改正後の在宅看護学におけるより効果的な在宅看護学演習授業のあり方を検討するため、授業評価を継続的に実施している。在宅看護学演習の授業数と教材の妥当性、学生の学習への取り組み、在宅療養者の理解、計画立案、ロールプレイング、教員の関わりに関して学生から概ね肯定的な評価が得られた。今後の課題として、①グループワークへの支援、②ロールプレイングにおける授業構成、指導体制の工夫、③計画立案に際してのグループ特性を踏まえた支援の強化が挙げられた。

II. 在宅における看護過程に重点をおいた演習型授業評価—在宅看護学実習における学生の目標到達度への影響

在宅における看護過程に重点をおいた演習型授業に対する学生の自己評価がその後の在宅看護学実習終了時の目標達成度にどのような影響があったのかを明確にすることを目的とし、学生の演習型授業終了時の自己評価とその後実施された臨地実習終了後の自己評価の結果を比較検討した。看護過程の理解の深まるほど在宅看護学実習の目標到達度が高くなるという相関があり、在宅看護学の一連の学習プロセスが効果的であることが示唆された。

III. 急性期病院における認知症高齢者ケースの退院支援プロセス構築の研究

近年、認知症を有する高齢者が他の疾患の治療を目的として急性期病院に入院する機会が増えているが、その退院支援は困難ケースに挙げられる。認知症特有の困難性に対応した退院支援モデルを開発するための第1段階として、急性期病院の退院支援部門の看護師が関わる認知症高齢者の退院支援プロセスを明らかにする研究に取り組んでいる。本年度は、国内の認知症者の家族への支援に関する研究の動向と課題について文献検討を行った。また、急性期病院に勤務する看護専門職にインタビューによる調査を開始した。

IV. 在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆へのナラティブアプローチによる介入効果

在宅で最期を看取る家族の予期悲嘆に対してナラティブアプローチにより予期悲嘆がどのように変化をしていくのか介入効果を検討するために、余命6カ月以内と診断された療養者の家族へナラティブアプローチを実施し研究を継続し進めた。

V. 在宅高齢者の介護予防支援ネットワークの環境整備の基礎研究 II

地域団体や地域ボランティアおよび他職種との連携のもと、地域の資源を活用し、介護予防に必要な対象者を発見するネットワークを整備することが介護予防の新たな課題解決の鍵となると考える。その為の基盤研究の第2段階として、A地域の介護予防に関する地域組織のもつ情報やニーズ及び資源を把握することを目的に、地域包括支援センター看護職に対する個別インタビューを実施し、地域の特性に応じた情報の整理と課題の検討を行っている。

「点検・評価」

本年度の教育評価からは、演習型授業における看護過程に重点をおいた在宅看護学の一連学習プロセスが学生にとって効果的であることが確認された。一方、演習型授業で扱う事例数や課外学習の量には検討の余地があること、講義形式で行っている科目における知識の定着率が低いことなどの課題がある。これらの課題を解決するために、さらなる授業改善を行っていくとともに、教育評価を継続してゆく必要がある。

各教員が取り組んでいる研究は、いずれも在宅看護学領域では重要なテーマであり、領域内でサポートしあい、さらに発展的に取り組んでゆきたいと考

える。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Kita M, Ito K (Tokyo Women's Medical Univ).
The caregiving process of the family unit caring for a frail older family member at home: a grounded theory study. Int J Older People Nurs 2013; 8(2): 149-58.

III. 学会発表

- 1) 北 素子. 要介護高齢者を在宅で介護している家族の生活安定状況とその関連要因. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 8月. [日看研会誌 2013; 36(3): 330]
- 2) 遠山寛子, 北 素子, 吉田令子. 看護過程に重点をおいた演習型授業評価 在宅看護学実習の目標到達度への影響. 第39回日本看護研究学会学術集会. 秋田, 8月. [日看研会誌 2013; 36(3): 332]
- 3) 吉田令子, 北 素子, 遠山寛子. 在宅における看護過程に重点を置いた演習授業の評価 学生の授業評価から. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 8月. [日看研会誌 2013; 36(3): 330]
- 4) 嶋澤順子, 久保善子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価 第1報- 独自性欲求の学年比較-. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 8月. [日看研会誌 2013; 36(3): 330]
- 5) 久保善子, 嶋澤順子, 高島尚美, 北 素子, 高橋 衣, 佐竹澄子, 櫻井美代子. ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育評価 第2報- 学習による主体性の変化-. 日本看護研究学会第39回学術集会. 秋田, 8月. [日看研会誌 2013; 36(3): 330]

IV. 著 書

- 1) Woods B, Keady J, Seddon D 著, 北 素子監訳, グライナー智恵子 (日本赤十字看護大), 遠山寛子, 吉田令子訳. ケアホームにおける家族参加: 認知症ケアにおける関係性中心のアプローチ. 東京: 風間書房, 2013.